

# Adineko

神秘的な霧の中に消えていくようなエコー

Catalinbreadが伝説的なディスクエコーを再現し、世界的に注目を集めた“Echorec”の開発を始めた頃、同時にオイル缶エコーの再現にもとりかかりました。後にAdinekoと呼ばれることになるこのペダルの開発が始まったのは2012年の夏のことです。本物の音を知るために、いくつものウィンテージユニットを使用し、来る日も来る日も研究を重ねました。ユニットごとの音色の違いはもちろん、日によって、時には1時間ごとに音が変わるような個体も存在していました。

理想の条件に於ける最高のオイル缶エコーのトーン。クールでブライト、同時にダークなエコーサウンド。オイルの揺れがもたらすヴィブラートモジュレーションと、オイル缶エコーの持つ独特の、霧の中に浮遊するような音色。

それを、現代のコンパクトペダルとして当然のエコータイムとリピートを十分に確保した上で再現すること。Adinekoは、この全てを実現したディレイペダルです。

Adinekoのケースには、ウィンテージオイル缶エコーの中にあるオイル缶を思わせるエイジド塗装を施しています。薄く錆が浮いたように見える塗装を施すことで、ウィンテージエコーマシンの雰囲気までも再現しています。

※エイジド塗装は1台1台手作業で行っているため、全て違った表情を見せます。

ウィンテージサウンドを再現する新たなペダルを作る時、Catalinbreadでは必ず“古い経験”を尊重、それをさらに広げるように努めています。もちろん、Adinekoも同様です。

例えば、経年変化や熱により粘度が変わったオイルが作る独特のダークな音色も、VISCOSITY（粘度）ノブでコントロールすることができます。暖かなエコークオリティを保ったまま、かつてのオイル缶エコーの領域を遥かに越えるディレイタイムをTIMINGノブでコントロール可能。そして、BALANCEノブではオリジナルエコーユニットのデュアルプレイバックヘッドが作った独特なシンコペーションを再現できます。

## Controls

### BALANCE

オリジナルユニットには、2つのスライドスイッチやロータリースイッチで選択できるショートとロングの2つのエコープレイバックヘッドが搭載されていました。このヘッドは、片方、または両方を選択することができ、2つのヘッドを組み合わせて独特のシンコペーションをすることもできました。Adinekoではそれをさらに拡張。自由にバランスを調整できるようにすることで全く新しいリズムックなトーンをすることも可能となりました。このノブを反時計回りに回せばショートディレイタイムヘッドが、時計回りに回せばロングディレイタイムヘッドが強くなり、12時の位置ではそれぞれが同じバランスで出力されます。

### BLEND

このコントロールは、100%ウェット（エフェクト全体の音）と100%ドライ（インプットシグナル）の範囲でドライとウェットのバランスをコントロールすることができます。オリジナルユニットでは真空管のアンプステージが搭載されていましたが、Adinekoのアリアンプステージはそのサウンドを再現するように調整されています。

### TIMING

オイル缶エコーは、その殆どが固定式のディレイタイムです。一部のモデルではモーターのスピードを落とすことでディレイタイムを切り替えることができましたが、どちらにしてもオイル缶エコーユニットが作るこの出来るディレイタイムは80~120msと、非常に短いものでした。Adinekoは、TIMINGノブを調整することで、最大1秒までのディレイタイムを設定することができます。

### VISCOSITY

このコントロールを理解するには、オリジナルオイル缶エコーユニットの動作を知っておく必要があります。オイル缶の中にゆっくりと回るメタルディスクがあるとイメージしてみてください。このディスクは、1つ、または2つのプレイバックヘッドが音をピックアップするまでの間、レコードブラシヘッドからの静電負荷を維持します。もし缶が空だったら、ここに静電気が発生してしまうため、缶の中を謎のオイルで満たします。そのオイルはほとんどがUnion Carbide LB-65で、長年、このオイルには発がん性があったとの噂もあります。ともかく、このオイルの役割は空気からの静電気を防止するためのものでした。このオイルの問題は、例えば熱により粘性が低下すると、電荷を維持できません。オイルの粘性が下がり、オイルの揺れが大きくなるほど、音色に揺らぎが生じます。つまり、このコントロールはモジュレーションの深さを調整するものです。

### REVERB

このノブはエコーユニットのリピートコントロールのように動作します。ディレイラインのアウトプットをディレイラインのインプットへと送ります。オリジナルオイル缶エコーと同様にAdinekoのリピートにはモジュレーションが加わり、さらにローファイ化することでオリジナル同様のリピートサウンドを作ることができます。

### 内部スイッチ

トゥルーバイパスとエフェクトOFF時にも残響を残すバッファードバイパスを選ぶことができます。

# Adineko

## デザイナーズノート

私がCatalinbreadブランドを始める前から、オイル缶エコーユニットの魅力に取り憑かれていました。いつ頃のことが正確に覚えているわけではありませんが、初めて手に入れたオイル缶エコーはFender Dimension IV“Sound Expander”というモデルでした。Fenderアンプのリバースルーブに取り付けて使う外付けエコーユニットです。このユニットを実際に使うのは困難で、やたらと揺れる強力なリバースルーブを作るだけのものでした。そこで、私はDIYウェブサイトに参加を求めました。誰か覚えている人も居るかもしれませんが、そして、このユニットにリバースルーブとヴィブラートコントロールを取り付けることが出来ないかと思っていましたが、帰ってきた答えは全会一致で“そういうものだ”というものでした。そして、このユニットに使われているオイルは発がん性があり、今ではどこに行っても入手できないということも知りました。その後、私はAcoustic Reverberato、Tel-Ray Organ Tone、Tel-Ray Variable Delay、Gibson GA-4REなど様々なオイル缶ユニットを入手し、使えるエコーとヴィブラートを求め続けました。2012年の夏、CatalinbreadではEcorecと共にオイル缶ユニットのサウンドを再現するペダルの開発にとりかかり、ついに本当に使うことの出来るヴィブラートとディレイを持った“ユニット”が完成したのです。オリジナルモデルを超えるディレイタイムやヘッドのバランスコントロールなど、オリジナルモデルの音色を再現し、オリジナルユニットを尊重しながら、さらに現代的に使えるものが出来上がりました。

ニコラス・ハリス (Catalinbread主宰)

## クイックスタート

初めてAdinekoを手にしたのなら、まずはこのペダルだけで、アンプをクリーンにして音を出してみましょう。Adinekoはオイル缶エコーのトーンを再現しますが、その音色を保ったままオリジナルユニットを超えた領域までを想定して設計されています。Adinekoでオリジナルオイル缶エコーユニットの操作範囲を再現すると、以下のようなセッティングになります。

TIMING : 9~10時	REVERB : 自己発振寸前の設定	BALANCE : 12時
VISCOSITY : 9~10時	BLEND : 12時	

オリジナルオイル缶エコーは2タップ（リピート）のみの、ショートディレイしか作ることのできないユニットであることが分かります。しかし、そのディレイタイムと同期するヴィブラート、そして自己発振寸前のリバースルーブサウンドの霧の中へ消えていく、幽玄で美しいディレイサウンドを実感することができます。もう少しヴィブラートの効いたTel-Ray Deluxe Organトーンが欲しいなら、REVERBを下げ、BLENDを上げます。

## Power supply

Adinekoは9~18VのセンターマイナスDCアダプターで駆動します。電池はお使いになれません。  
消費電流 : 60mA

正規輸入代理店

Quanta Int'l.

サポートはこちら  
<https://quanta-intl.jp/support/>



catalinbread  
MECHANISMS OF MUSIC

# WARRANTY POLICY

---

この度はCatalinbread製品をお買い上げいただきまして  
まことにありがとうございました。

本品は厳密な製品検査に合格したものです。

御使用中に故障した場合は下記保証規定に従い修理・調整致します。

---

- 1 - 本保証書の有効期限はお買い上げ日より1年間です。
  - 2 - 本保証書は日本国内のみ有効です。
  - 3 - 保証期間内でも次の場合の修理は有償となります。
    - a. 消耗品（電池、真空管、パーツ等）の劣化による交換。
    - b. 保証期間が満了しているパーツが原因による故障。
    - c. お取扱い方法が不適当なために生じた故障。
    - d. お買い上げ後の運搬、落下や加重等による損傷、故障。
    - e. 天災（火災、浸水、地震、落雷等）による故障・破損。
    - f. 発電機の使用による故障。
    - g. 故障・破損の原因が本製品以外の機器にある。
    - h. メンテナンス不足による故障。
    - i. 指定外の者による改造、調整、部品交換などがされている。
    - j. 指定外の者による修理、調整、部品交換などにより生じた故障。
    - k. 保証書の字句が書き換えられている。
    - l. 保証期間内においても、保証書のご提示が無い。
    - m. 取扱説明書における禁止/注意事項を行ったために起きた破損
  - 4 - 修理中の代替品や商品の貸出し等は、いかなる場合におきましても一切行っておりません。
  - 5 - 保証書に購買日付、購買店舗等の記入が無い場合は無効となります。記入できない時はお買い上げ年月日・店名が証明できる領収書等と一緒に保管して下さい。
  - 6 - 保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管して下さい。
-